

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成 22 年 1 月 20 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号			
法人名	株式会社 伊藤建設		
事業所名	グループホーム ひかり	ユニット名	B棟
所在地	〒 310-0914 茨城県水戸市小吹町267-43		
自己評価作成日	平成 22 年 1 月 20 日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者同士が支え合い、できることに注目し、自立心を促し、その人らしさを大切にした生活空間を提供できるよう努めている。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で情報交換を密にし「利用者の立場になってお世話させていただきその人らしさを大切にします」を基にした介護を実践している。「ご家族との交流」は職員が毎月生活状況報告書を送付している。ボランティアを利用し「地域社会との交流」を実践している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フラダンスやリハビリ体操のボランティアを利用したり、町内の盆踊りや近隣施設の催しに参加している。買い物や散歩を通して地域の人々と積極的に交流している。毎月美容師の方に来ていただき、利用者の意思で散髪してもらっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に一回開催し、外部評価結果や自己評価、利用者へのサービス提供状況や生活状況を報告し、出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、その結果を生活状況報告書や広報誌で家族に報告している。欠席の委員には議事録を送付している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は運営上の問題や疑問が生じた場合は市に出向いたり電話などでアドバイスを得ている。介護相談員を受け入れている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアにおいては目前に道路があるため、中からは手動スイッチにて対応している。その他、裏口2か所については自由に出入りできるよう段差部分には手摺を設け、夜間以外は開放してある。 “身体拘束排除宣言”用紙を掲示し、申し送りや会議を通してケアの仕方を考案している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が利用者の情報収集をすることで性格やADL状況が把握できることにより、適度な介助ができています。虐待についての著書を常備してある。申し送りを通して情報交換をし、討論する場を設けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すべて管理者が行っており、職員は関与していない。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って説明し、疑問点や不安なことについてはその都度説明し、納得を得ている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに意見箱を設置している。家族の訪問時や電話の時に不満や要望、意見を聴いている。その都度、申し送り帳を使用し全職員に報告している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員との会話や申し送りの時間を密にし、意見や提案を聞く場を設けている。月1で全体会議を行い業務改善等を図っている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップチェック表をつくり、毎月目標と反省・やりがいを記載してもらっている。希望休や勤務体制、職員配置など、職員間の環境に配慮した環境整備に努めている。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員各自のスキルアップチェック表の目標を把握し、力量とケアの実際をポイントを絞って育てるように努めている。研修受講案内をもとに、その都度個々に受講を勧めている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と意見交換を行うとともに、運営推進会議や近隣施設の催しに職員も参加することで意見交換や情報交換の場が設けられ、サービスの質の向上が期待できる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己紹介や入所経緯など利用者の話に傾聴し、家族からの情報をもとに会話を進めて、しばらく傍に職員がつくようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内には軽度から重度の認知症の方がいることや、家族が抱く不安要素をホーム側が確実に理解することで、関係づくりを努めることができています。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、管理者を中心に、職員はサマリー、基本情報シート、家族との面談による情報を基に利用者とのコミュニケーションを通して必要な支援を見極めるよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや不安、喜びなどの喜怒哀楽を日々の暮らしの中で分かち合うとともに、利用者が得意分野で力が発揮できるよう支援している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話や手紙を送る機会をつくっている。来訪時は居室内で過ごしていただく時間を設けている。利用者の現状を報告し、家族と情報を共有している。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所が明確な利用者に対しては、手紙や電話連絡をするなどの場を設け関係を継続できるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月誕生会やお楽しみ会、AB合同でレクをしたり、席決めの際も本人の希望や関係性を把握し支援している。ADL状態に応じて、お茶や食事の配膳など職員見守りの中、利用者間で助け合い関わり合うような支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から連絡があれば相談や支援に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日誌や会議、利用者との関わりの中から不満や要望、行動や言動を通じて思いや意向の把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員はケース記録、利用者との関わりの中から各自情報収集をし、利用者の背景の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録をもとに、家事手伝いなどの日常生活上の変化がみられた際には常に情報交換しあい、定期的にカンファレンスを行って介護計画を見直している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は各自情報収集し、家族には生活状況報告書を送付して現状を常に報告し、要望等あれば取り入れている。それを基に管理者、ケアマネージャー、職員で会議を行い介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを使用し個別に記録している。ユニットが違ってても利用者の現状をすぐに把握できるように記載しているので、介護計画に沿った統一ケアを実践できている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や要望に応じた馴染みの生活を継続し、重度になっても安心した生活環境を確保している。 希望すれば家族も宿泊できるなど柔軟な支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の民生委員の方や老人会会長の方に運営推進会議に参加していただき、情報を提供してもらっている。リハビリ体操やフラダンスなどのボランティア、避難訓練時に消防署の方から説明を受けたり利用者が楽しめるよう支援に努めている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の往診と歯科医による往診を受け入れている。利用契約時に利用者や家族から受診を希望する医療機関を確認している。かかりつけ医がある場合は職員が通院支援をしている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員がとらえた情報や気づきは、管理者やケアマネージャーに報告し、その都度協力医療機関に電話相談し、支持を仰いでいる。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、手術日は管理者が家族とともに付き添い、情報交換や相談をしている。こまめに見舞に伺い、病院関係者との情報交換を密にし関係づくりに努めている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は重要事項説明書に明記していないが、利用者の状態に応じて利用者や家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、対応方針を共有している。かかりつけ医、家族からの指示に従って支援に取り組んでいるが、契約書やマニュアルの作成までには至っていない。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを作成してあるが、定期的な訓練はできていない。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知機を設置するとともに災害対策マニュアルを作成し、消防署と連携して年2回避難訓練を実施している。食料や飲料水を備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアや記録に努めている。記録等の個人情報事務所に保管し情報漏れがないよう配慮している。全職員が守秘義務を理解し、契約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの際、本人の意思を尊重するよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、職員は利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともに、利用者のその時の気持ちを尊重し希望に沿って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の散髪は本人の意思を尊重し髪形をきめている。可能な場合はコーディネートも利用者本人に決めてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に献立の作成や買い物、食事の準備や片付けなどの役割が担えるよう支援している。毎月の誕生会やお楽しみ会では寿司などの出前をとり、利用者の楽しみとなっている。自家菜園でとれた食材を調理したり、旬の季節料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門家によるカロリー計算をした献立で利用者の栄養状態に応じて食事の量や形態を変えて食事を提供している。食事量や水分摂取量についても必要量が確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、利用者の状態に応じて口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、排泄パターンや習慣を把握している。それを基にトイレ誘導し、オムツの使用を無くす支援に努めている。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に配慮し、毎日リハビリ体操を行い運動不足の解消に努めている。昼食時ヨーグルトを提供している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴できるように支援している。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝タイムを設けているが、基本的には利用者の意思を尊重し自由に休息してもらっている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスの個人ページに、薬の作用・副作用が一目で分かるように記載されている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し、得意なことやできることを見出して役割を担ってもらうことで、そのひとらしい生活を過ごせるよう支援している。買い物や調理、裁縫やDVD鑑賞、新聞や広告を見て商品を選んだり、気分転換の支援をしている。畑仕事やイベント時の飾り付けをしてもらっている。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気候、時季に配慮しながらホーム敷地内を散歩したり近くの公園や畑に出て近所の人と話をしている。ドライブや外食、買い物などの支援をしている。また、家族と外出することもある。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物の際は鞆や財布を所持し、その中で買い物をするよう支援している。利用者の要望にできるだけ応じている。近くの自販機にジュースを買いに行くこともある。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>施設内に公衆電話を置き、要望に応じて支援している。家族のいる利用者には手紙を書くよう勧めている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節の花を飾り、毎月カレンダーを手作りし、季節感が出るよう工夫している。畳敷き一隅やソファを設置し、利用者が休息できるよう配慮している。施設内にウッドデッキを設け、机と椅子を用意し、安心して気軽に外で休息できるよう工夫している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのテーブル配置は気の合う利用者同士で座ってもらい、編み物や会話、トランプなど思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は壁に写真や絵を飾ったり馴染みの品を持ち込むなど、自宅と同じように居心地良く生活が出来るよう支援している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドの配置を状態に合わせて変える工夫をしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない